

2025年05月 現在

Fujitsu

Enterprise Application Platform V2.0.0

本商品は、Jakarta EE Core Profile 11仕様準拠に加えて、Jakarta EE Platform 10に含まれていた各種コンポーネント仕様をバージョンアップしてサポートする基幹システム向けのJavaアプリケーションサーバー（Eclipse GlassFishベース）を提供します。

また、MicroProfile 6互換であるマイクロサービス向けの軽量Javaフレームワーク（Launcherベース）、および、それらの実行を支えるJavaランタイム（OpenJDKベース）を提供することで、既存のJava資産を有効活用しつつ、信頼性の高いクラウドネイティブアプリケーションの実行環境を提供します。

- サーバ

PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / PRIMERGY / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / パブリッククラウド

- サーバ

Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64) / Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64) / Amazon Linux 2023

1. OpenJDK 21

プログラミング言語Javaの標準仕様であるJava SEの参照実装OpenJDK (Open Java Development Kit)を提供します。

本商品では、富士通独自に安定稼働技術を取り込んだOpenJDKを提供します。安定稼働技術については、「4. 高信頼、安定稼働」を参照してください。

2. GlassFish 8

Jakarta EE Core Profile 11互換である基幹システム向けのGlassFishを提供します。GlassFishはオープン技術のEclipse GlassFishをベースに、基幹システム構築実績で培った高信頼・安定稼働技術を富士通独自に取り込んだ、トラブルに強いアプリケーション実行環境です。富士通独自の高信頼・安定稼働技術については、「4. 高信頼、安定稼働」を参照してください。

3. Launcher

MicroProfile 6互換である、Launcherを提供します。MicroProfile 6にはマイクロサービスアーキテクチャでアプリケーションを開発するために必要となるAPIが定義されており、Launcherを使用することで利用者は、高信頼で運用性の高いマイクロサービスを作成できます。

また、特定ベンダーに依存しないプログラミングモデルを採用しているため、複数ベンダーのランタイムで動作する移植性の高いアプリケーションを作成できます。

4. 高信頼、安定稼働

オープンソースに基幹システム構築実績で培った高信頼・安定稼働技術を取り込んで、拡張機能として提供しています。

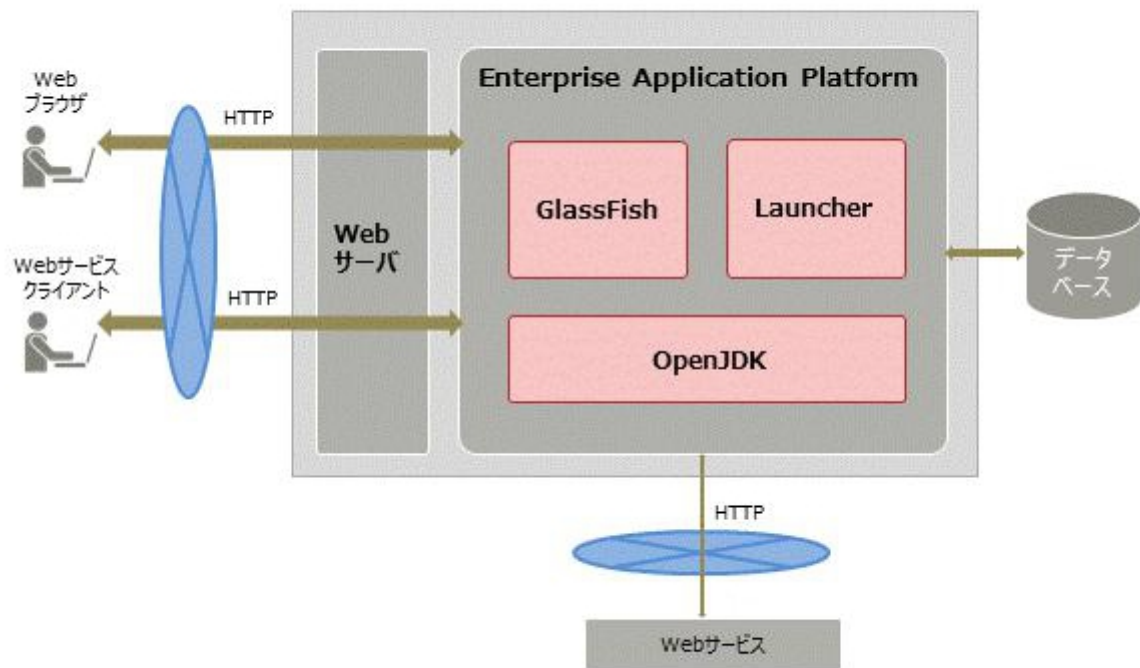
[GlassFishの拡張機能]

- ・アプリケーションの起動・停止時間、レスポンス時間、生存通知など、様々なアプリケーションの異常を監視します。(※)
- ・アプリケーションの異常終了を検知した場合、自動的に再起動して業務継続する機能を提供します。(※)
- ・Webコンテナのプロセスダウン、マシンダウン、またはパブリッククラウドの仮想マシンのスケールインが発生した場合、他の稼働中のWebコンテナがセッション情報を引き継ぎ、運用を継続できる機能を提供します。

(※)コンテナ環境では、コンテナ環境が提供する同等機能をご利用ください。

[OpenJDK、GlassFishの拡張機能]

- ・異常発生時のログ出力を強化し、トラブルの早期解決、安定稼働を支援します。



V1.2.0からV2.0.0の機能強化項目は、以下のとおりです。

1. OpenJDK 21対応

Javaアプリケーション実行環境としてOpenJDK 21(21.0.5)を提供します。

2. Jakarta EE Core Profile 11対応

基幹システム向けJavaアプリケーションサーバーの規格Jakarta EE Core Profile 11に対応したGlassFishを提供します。

Jakarta EE Core Profile 11に加えて、Jakarta EE Platform 10に含まれていた各種コンポーネント仕様をバージョンアップした機能をサポートします。

注意) サポートされるコンポーネント仕様の詳細は、製品マニュアルの「GlassFishユーザズガイド」を参照してください。

3. セッションレプリケーション機能の提供

GlassFish Serverインスタンス間でWebアプリケーションのセッション情報を共有する機能を提供します。

これにより、あるGlassFish Serverインスタンスが停止した場合でも、保持していたセッション情報を別のGlassFish Serverインスタンスへ引き継いで処理をすることが可能となります。なお、本機能はパブリッククラウド上でのみ動作します。

注意) 本機能はAmazon Web Services、Microsoft Azure上のRedisを利用したマネージドサービスとの連携を前提とした機能となります。

4. サポートデータベースの拡大

以下のJDBCドライバをサポートします。

- Enterprise Postgresを利用する場合
Enterprise Postgres クライアント機能 16/17
- Oracleを利用する場合
Oracle JDBC Driver 23ai
- SQL Serverを利用する場合
Microsoft JDBC Driver for SQL Server 12.8
- Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションを利用する場合
Amazon Web Services (AWS) JDBC Driver 2.5.X(Xは“4”以降)
PostgreSQL JDBC Driver 42.7.X(Xは“5”以降)
- Azure Database for PostgreSQLを利用する場合
PostgreSQL JDBC Driver 42.7.X(Xは“5”以降)

5. 新OS対応

Amazon Linux 2023に対応します。

6. コンテナ動作環境の拡大

コンテナ動作環境として、次の環境を新規にサポートします。

■コンテナベースイメージ

- Amazon Linux 2023 base container image

- オンラインマニュアル
 - Enterprise Application Platform オンラインマニュアル

【メディア】

- Enterprise Application Platform メディアパック (64bit) V2 (V2.0.0)

【サブスクリプションライセンス／サポート】

[サブスクリプションライセンス／サポート(月額払い)]

- Enterprise Application Platform コアライセンス for Linux (SL&S)

[サブスクリプションライセンス／サポート(まとめ払い)]

- Enterprise Application Platform コアライセンス for Linux (SL&S) 7年

1. メディアパックについて

メディアパックは、媒体（CD/DVD等）のみの提供です。使用権は許諾されておりませんので、別途、ライセンスを購入する必要があります。初回購入時には、最低1本のメディアパックとサブスクリプションライセンス／サポートを同時にご購入ください。

本メディアパックの購入でバージョンアップ／レベルアップすることはできません。

バージョンアップ／レベルアップする場合は本メディアパックを購入せず、アップグレード権を行使してメディアを入手してください。

製品プログラムの入手方法については、以下の「5. 購入時の特約事項」もご参照ください。

2. サブスクリプションライセンス／サポートについて

サブスクリプションライセンス／サポートはプログラム・プロダクト使用権とサポートサービス（SupportDesk Standard）が一体となったサービス商品です。

【月額払い】

サービスを購入することで、1ヶ月分の使用権とサポートを得ることができる商品であるため、使用の開始、継続、中止等に当たっては、以下のことにご留意ください。

- ・使用開始日から1ヶ月間のみ、使用権とサポートが有効です。
- ・継続して使用する場合は、サービス契約は自動的に更新されます。
- ・使用を中止する場合は、1ヶ月以上前に解約申入れが必要です。

【まとめ払い】

サービスを購入することで、7年間分の使用権とサポートを得ることができる商品であるため、使用の開始、継続に当たっては、以下のことにご留意ください。

- ・使用開始日から7年間、使用権とサポートが有効です。
- ・自動更新は不可です。（新規購入が必要）

インストールするサーバのコア数に応じてサブスクリプションライセンス／サポートが必要となります。

利用するサーバ環境（物理サーバ環境、仮想環境、クラウド環境）での、本サブスクリプションライセンス／サポートの必要購入数は以下のとおりです。

【物理サーバ環境】

必要購入数 = 物理サーバの稼働プロセッサに搭載されているコアの総数

【仮想環境】

必要購入数 = 仮想サーバに割り当てられる仮想プロセッサの総数

仮想プロセッサにスレッドが割り当てられる場合、スレッド数をコア数へ変換（1コアあたりのスレッド数で除算）して必要ライセンス数を計算します。（小数点以下端数切上げ）

必要購入数 = 仮想サーバに割り当てられる仮想プロセッサの総数 ÷ コアあたりのスレッド数

【クラウド環境】

必要購入数 = 仮想サーバに割り当てられる仮想プロセッサの総数

3. サブスクリプションライセンス／サポートでの最新プログラムの提供について

サブスクリプションライセンス／サポート契約の一環として、最新バージョン／レベルのプログラムを提供いたします。

4. クラスターサービス連携(1:1運用待機形態)で運用する場合の購入方法

1対1運用待機形態で運用する場合は、2ノードを1システムと考えて、1システムに本商品を1つ 購入することを使用することができます。

5. 購入時の特約事項

サブスクリプションライセンス／サポートの契約におけるライセンス使用条件の特約事項について記載します。

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、サブスクリプションライセンス／サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書記載の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、サブスクリプションライセンス／サポート製品のサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(3) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

サブスクリプションライセンス／サポート製品のサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」、またはライセンス条件説明書記載の第5項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、サブスクリプションライセンス／サポート製品のサービス仕様書記載の第8項「保証の範囲」第(1)号および第(2)号、またはライセンス条件説明書記載の第5項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

(4) 改造について

お客様は、本製品等のうち対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたプログラムについては、サブスクリプションライセンス／サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号のj.、またはライセンス条件説明書記載の第5項「共通事項」第(4)号「改造」の定めにかかわらず、本製品等とともに使用するOSSに適用された「GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE V2.1」および「GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2」により許諾される範囲に限り、改造とリバースエンジニアリングを行えるものとします。

(5) 製品プログラムについて

製品プログラムは、ご利用環境に合わせてメディアパックの購入、もしくはRedHatが運営するコンテナレジストリサービス (quay.io) からのダウンロードのいずれか、もしくは両方の方法で入手してください。いずれの場合も、使用権は許諾されておりませんので、別途、サブスクリプションライセンス／サポートを購入する必要があります。ダウンロードによる入手方法の詳細は、マニュアル「Launcherユーザーズガイド」の「3.4.1 本製品のコンテナイメージの直接利用」を参照してください。

なお、Red Hatが運営するコンテナレジストリサービス (quay.io) のサービス停止により、コンテナイメージがダウンロードできない場合は、富士通サポートデスクにお問い合わせください。

(6) 免責について

Red Hatが運営するコンテナレジストリサービス(quay.io)のサービス停止または第三者による不正アクセス、改変、削除もしくは破壊等の行為により、お客様が対象プログラムをダウンロードできない場合、富士通は一切責任を負わないものとします。

1. 連携可能なデータベース (注1)

[Linux(for Intel64)上のデータベースに接続する場合]

- Enterprise Postgres Advanced Edition 13/14
- Enterprise Postgres Standard Edition 13/14/15/16/17
- Enterprise Postgres Advanced Enterprise Server Edition 14/15/16/17
- Oracle Database 19c/21c/23ai

[Windows(64-bit)上のデータベースにリモート接続する場合]

- Enterprise Postgres Advanced Edition 13/14
- Enterprise Postgres Standard Edition 13/14/15/16/17
- Enterprise Postgres Advanced Enterprise Server Edition 15/16/17
- Oracle Database 19c/21c/23ai
- Microsoft(R) SQL Server(R) 2022 Enterprise
- Microsoft(R) SQL Server(R) 2022 Standard

[Azureのマネージドデータベースに接続する場合]

- Azure Database for PostgreSQL

[AWSのマネージドデータベースに接続する場合]

- Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディション

(注1)以下のJDBCドライバを使用してください。関連ソフトウェアに記載しているデータベース以外でも、以下のJDBCドライバがサポート対象としているデータベースと組み合わせ可能です。

- Enterprise Postgresクライアント機能 13/14/15/16/17
- Oracle JDBC Driver 23ai
- Microsoft JDBC Driver for SQL Server 12.8
- Amazon Web Services (AWS) JDBC Driver 2.5.X(Xは“4”以降)
- PostgreSQL JDBC Driver 42.7.X(Xは“5”以降)

2. 連携確認済みのWebサーバ

- Apache HTTP Server 2.4

3. クラスターサービス連携を行う場合

- PRIMECLUSTER Enterprise Edition 4.6/4.7(Linux 64ビット商品) (注1)
- PRIMECLUSTER HA Server 4.6/4.7(Linux 64ビット商品)(注1)

(注1) PRIMECLUSTERのRed Hat Enterprise Linux 8およびRed Hat Enterprise Linux 9の対応状況は、PRIMECLUSTERのソフトウェア・ガイドを参照してください。

1. Intel64環境での動作について

本商品は、以下のディストリビューションの環境で、64ビットモードで動作します。

- Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64) ※Red Hat Enterprise Linux 8.8以降をサポート
- Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64) ※Red Hat Enterprise Linux 9.2以降をサポート
- Amazon Linux 2023 (for Intel64)

2. Java実行環境について

本商品では、以下のOpenJDKを同梱しています。アプリケーションを実行する場合は、本商品に同梱しているOpenJDKを使用してください。

- ・OpenJDK 21

3. Webブラウザ

GlassFishの管理コンソールは以下のWebブラウザに対応しています。

- ・Google Chrome
- ・Microsoft Edge (Chromiumベース)

4. クラスターサービス連携

サポートしているクラスター形態は、1:1運用待機形態です。

5. オープンソースソフトウェアの使用

本商品で提供をしていないオープンソースソフトウェアをインストールして使用している場合、サポート対象外となります。

また、オープンソースソフトウェアで提供していても、本商品でサポートしていない機能を使用している場合も、サポート対象外となります。

6. IPv6対応

本商品は、IPv6/IPv4デュアルスタック環境での運用のみをサポートしています。

7. Interstage Application Server Enterprise Edition V13との機能差

[最新技術の提供]

Interstage Application Server Enterprise Editionで提供しているOpenJDK 8、GlassFish 5について、本商品では最新技術の以下を提供します。

- ・OpenJDK 21
- ・GlassFish 8

[提供されない機能]

Interstage Application Server Enterprise Editionの以下の機能については、本商品では提供されません。

- ・Webサーバ
- ・予兆監視
- ・ディレクトリサービス
- ・シングル・サインオン
- ・CORBAサービス
- ・クライアントパッケージ

[マイクロサービス向け機能の提供]

Interstage Application Server Enterprise Editionでは提供していない以下を本商品では提供します。

8. 前版 (V1.2.0) との機能差について

(1) 以下の機能はサポート対象外となります。

- OpenJDK 17のJava実行環境
- Jakarta EE 10に対応したGlassFish

(2) 以下のOSでの利用はサポート対象外となります。

- Red Hat Enterprise Linux 7

(3) 以下の製品との連携はサポート対象外となります。

- Oracle JDBC Driver 21c (JDBCドライバ)
- Microsoft JDBC Driver for SQL Server 10.2、11.2、12.2 (JDBCドライバ)

(4) 以下のコンテナ環境での動作はサポート対象外となります。

- Red Hat OpenShift Container Platform 4.10、4.11、4.12、4.13、4.14
- Amazon Elastic Kubernetes Service 1.27
- Azure Kubernetes Service 1.26

(5) サポート期間は富士通製ミドルウェアのサポートポリシーに準拠しております。

9. Jakarta EE 8以前の規約を元に作成されたアプリケーションを利用する場合の留意事項

Jakarta EE 8以前で使用されたjavaのパッケージ名、プロパティ名の名前空間は、Jakarta EE 9以降、java xからjakartaに変更されるなど、規約のメジャーバージョンアップに伴う大きな非互換があります。

そのため、Jakarta EE 8以前の規約を元に作成されたアプリケーションを使用する場合、パッケージ名の変更などの移行作業が必要です。詳細は製品マニュアルの「リリース情報」や、Jakarta EE Core Profile 11の規約を参照してください。

10. コンテナ動作環境のサポート

以下のコンテナ動作環境をサポートしています。

利用するコンテナ環境に合わせて適切なコンテナベースイメージを選択してください。

注意) コンテナ動作環境では、Linuxのコンテナイメージの運用のみサポートします。

■Launcherを使用する場合

コンテナ環境	コンテナベースイメージ
Red Hat OpenShift Container Platform – 4.15以降	Red Hat Universal Base Image 8 (Standard) Red Hat Universal Base Image 9 (Standard)
Amazon Elastic Container Service – Linuxプラットフォームのバージョン: 1.4.0	
Amazon Elastic Kubernetes Service – Kubernetesバージョン: 1.32	
Azure Kubernetes Service – Kubernetesバージョン: 1.30	

■GlassFishを使用する場合

コンテナ環境	コンテナベースイメージ
Red Hat OpenShift Container Platform – 4.15以降	Red Hat Universal Base Image 8 (Standard) Red Hat Universal Base Image 9 (Standard)
Amazon Elastic Container Service – Linuxプラットフォームのバージョン: 1.4.0	Red Hat Universal Base Image 8 (Standard) Red Hat Universal Base Image 9 (Standard)
Amazon Elastic Kubernetes Service – Kubernetesバージョン: 1.32	Amazon Linux 2023 base container image
Azure Kubernetes Service – Kubernetesバージョン: 1.30	Red Hat Universal Base Image 8 (Standard) Red Hat Universal Base Image 9 (Standard)

11. パブリッククラウド対応について

サポート対象のパブリッククラウドについては、「関連URL」に記載の「富士通（ソフトウェアのクラウド対応）」を参照してください。

Oracle Cloud Infrastructure上での動作はサポート対象外です。

12. 排他ソフトウェアについて

本商品の排他ソフトウェアに関する情報は、マニュアルの「インストールガイド」をご覧ください。

マニュアルについては、「関連 URL」に記載の「ソフトウェア：富士通（マニュアル）」を参照してください。

※Interstage Application Server V13以降、Interstage Business Application Server V13以降は排他ソフトウェアです。ご注意ください。

13. Amazon Linux 2023での注意

本商品はAmazon Linux 2023上での動作をサポートします。ただし、Launcherは未サポートです。

注意) Amazon Linux は、アマゾン ウェブ サービスによってサポートおよび更新されるディストリビューションで、Elastic Compute Cloud (EC2) インスタンスで利用できます。

お客様向けURL

- ソフトウェア：富士通（Enterprise Application Platform）

本商品の詳細情報を掲載しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/middleware/business-middleware/middleware/applatform/>

- ソフトウェア：富士通（ソフトウェアの一覧表（システム構成図）と各種対応状況）

価格/型名の一覧（システム構成図）を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/condition/configuration/>

- ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）

「ライセンスについて、くわしく知る」の項で富士通製ミドルウェア製品のライセンスに関する解説、サポート期間などの情報を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/information-download/>

- ソフトウェア：富士通（マニュアル）

富士通のソフトウェア製品に添付されているマニュアルが閲覧できます。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/manual/>

- ソフトウェア：富士通（ソフトウェアのクラウド対応）

ソフトウェアのクラウド対応に関する情報はこちらをご覧ください。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/theme/cloud/>